

平成24年9月市議会定例会より

9月20日（火）から15日間の会期で開催された市議会定例会で、工藤市長の「一般行政報告」が行われました。

※一般行政報告は、全文を一部要約して掲載しています。

一般行政報告

『最北端・食マルシェ』『南中ソーラン全国交流祭 in 稚内』の開催

完成したばかりの北防波堤ドーム公園を会場に、8月25日、26日の2日間『最北端・食マルシェ』を、また初日25日に『南中ソーラン全国交流祭 in 稚内』を、同時に開催しました。



たくさんの人で賑わった北防波堤ドーム公園



演舞者たちの迫力ある踊り

『最北端・食マルシェ』は、昨年、「最北端の地の碑50周年記念」として宗谷港・てっぺん公園で開催したイベントで、この春、完了した駅周辺整備事業により、キタカラ、道の駅などがオープンしたことに合わせ、会場を駅周辺に移し、メモリアル事業として開催したものです。

本年は、テーマを『食・にぎわい・歴史』とし、特に「宗谷黒牛」、「宗谷のほたて」、「勇知いも」、「稚内牛乳」など稚内ブランド認定品をはじめ地元食材にこだわった飲食・物産販売を行い、その魅力をPRしました。

また、駅周辺の各施設では、懐かしい光景でつづる歴史写真展やスタンプラリーなども開催し、歴史をキーワードに、中心市街地に人の流れを創るよう努めました。

また、3年ぶりの開催となった『南中ソーラン全国交流祭 in 稚内』は、幼児から80代まで幅広い年代の皆さんに参加していただきました。

36団体、1,800人の皆さんの懸命な踊りに、

『人が行き交う環境都市わっかない』実現に向けた取り組み

福島原発事故以来、本市の再生可能エネルギーの取り組みが注目を集め、取材や視察が相次いでいます。そのような中、原発停止に起因する電力供給不足が懸念され、この夏は、市民の皆さんにも節電をお願いしました。市としても、ほく

でんの計画停電期間を拡大して6月1日からの4か月間、率先して庁舎の節電に取り組みました。8月末までの実績では、目標としている7%を大きく上回る11%の削減を達成しています。節電は、省エネ推進の柱の一つです。今回の節電対策は、我々に大きな意識の変革をもたらしました。また、今年は企業や団体の皆様にも、エコを意識した大きな感動をいただきました。2日間のイベントの人数は、延べ2万9千人。

初日は天候に恵まれ、また2つのイベントの相乗効果も大きかったことから、延べ2万5千人の来場者でにぎわいましたが、2日目は雨に見舞われたこともあり、延べ4千人にとどまりました。



議

岩手県の災害廃棄物の状況視察

東日本大震災の災害廃棄物の受け入れについては、市民の皆さんの安心・安全が確保されることを前提に、協力したいという姿勢で、これまで情報の収集等に努めてきました。

このたび、北海道の呼びかけで岩手県内の災害廃棄物処理状況の視察が行われることとなり、今後の判断材料にするため、視察に参加してきました。7月27日から行われたこの視察には、本市からは私と担当課長、国や北海道、浦河町から合

まざまな取り組みを行っていただいています。

稚内青年会議所には、電気自動車で日本列島縦断に挑む「稚内情熱キャラバン隊」で、本市の再生エネルギーへの取り組みや観光の魅力などをPRしていただきました。

また、稚内ライオンズクラブからは、エコ観光の創出につなげることを期待して、「道の駅わっかない」に電気自動車の急速充電器を寄贈していただきました。

さらに本日9月20日から、『再生可能エネルギー推進稚内大会』第16回全国風サ



「道の駅」に完成した電気自動車の急速充電器

ミット』を開催します。

我が国のエネルギー政策のあり方が議論される中、エネルギー事情に詳しい専門家が、再生可能エネルギーで9割を賄うマチ、こ

こ稚内に集います。

全国から集まった関係者の皆さんとともに、再生可能エネルギーの普及などについて、本市から力強くメッセージを発信したいと思っています。

このたびの電力不足に対する危機意識、また皆さんの積極的に環境に貢献しようとする気運を無駄にすることなく、省エネ意識だけでなく、環境問題に対する意識をさらに高め、市民や事業者の皆さんと一緒に、「環境都市宣言のまち」にふさわしいまちづくりを一層進めます。

わせて9人が参加しました。

岩手県内の被災地3市2町で、主に不燃物の選別状況や放射線量などについて、確認を行ってきました。

市街地のがれきはすでに撤去されているものの、集積場所には、未だ大量の震災廃棄物が山積みとなっていて、被害の大きさを改めて実感させられました。

しかし、私たちが視察した「二次仮置場」では、想像以上に細かな選別が行われていて、有害物質の混入の可能性も無く、心配されている放射線量についても、人体に影響が無いレベルであることが確認できました。

環境省は8月7日、新たな「災害廃棄物の処理行程表」を公表し、岩手県内の漁具・漁網と、宮城県の不燃混合物については見通しが立っていないことから、それらの広域処理について新たな受け入れ先の調整を行うとしました。

これを受け北海道では「岩手県の漁具・漁網の受け入れについて協力要請があったので、受け入れを検討いただける市町村と協議を進める」としています。

本市では、現在、本市処分場での漁具・漁網の受け入れについて、慎重に検討を進めているところです。